

自分は秋田県藤里町に今年の二月に訪問させて頂いてから、約半年ぶりの訪問となった。今回は藤里町社会福祉協議会のきらりプロジェクトという企画に参加する形で藤里町に三日間滞在することになった。ここ藤里町は人口が少なく、高齢化が進んでいる、いわゆる限界地域と言われている地域である。そこで行われている社会福祉協議会の事業や住民と社会福祉協議会の関係性など、これらを実際に自分の目で見て感じたことなどを訪れた場所を踏まえながら報告していきたいと思う。

・一人暮らし高齢者宅訪問

今年の二月に一人暮らし高齢者宅に訪問させてもらった家と同様の場所に訪問した。私が訪問させて頂いた方は、八十代の男性である。この方は藤里町に長い間暮らししており、何十年も前の藤里町についてお話して頂いた。当時の藤里町は現在よりも人口が多く、子どもや若い人たちもそれなりに多かったそうだ。また、ダムができる前は、川がとても綺麗で、アユをよく釣りに出かけていたそうだ。このような話を聞くと、現在の藤里町は当時と比べてとても変わり切ってしまうと感じた。自分たちが町の中で歩いていて、地元住民の方とすれ違う時、必ずと言っていいほど、物珍しそうな顔をしてこちらを見てくる。それほどまでに、この藤里町では高齢化が進んでおり、若者が外の地域に出て行ってしまっているのだと感じた。しかし、ボランティアサークルごまちゃんとして行っている傾聴という側面においてはとても重要な働きができたのではないかなと思う。一人で暮らしているとどうしても会話するという機会が必然的に減少してしまう。そこで、自分たちが訪問することによって、一人暮らし高齢者の方たちにとっては、彼らが内に秘めているものを自分たちに投げかけられるし、僕たち若い人にとっては、高齢者の方が藤里についてどのように感じ、これからの藤里町がどのように変わっていったほしいのかを知ることができるいい機会だったのではないかな。

・福祉の拠点「こみっと」

この福祉の拠点「こみっと」はひきこもり・不就労・障害などの方々が社会復帰のために活動している就労支援施設である。自分は、藤里町には引きこもりになられる方はいないのではないかなと思っていたが、藤里町にも何人かは存在しておりとても驚いた。また、興味深い話を聞くことができた。四十代の男性の方で、元々、靴を作る職人で店を開いていた。その店を閉じることとなり、地元である藤里町に戻ってきたいものの、雇用先がなく、そのまま「こみっと」でお世話になっている方がいらっしゃる、という話を聞くことができた。このことから、就労支援は単純に、引きこもりや障害の方たちのためだけにあるのではなく、「失業して新しい職を見つけるための準備期間を作る場」としても機能するのではないかなと思う。しかし、このような支援施設が藤里町にもあることはとてもいいことだが、藤里町自体に十分な雇用先があるのかとても疑問に感じている。東京であれば、雇用先は業種を問わなければ星の数ほどあるであろう。しかし、藤里町には東京のように

人が多いわけではないので、藤里町でやれることは嫌でも限られてしまうと考える。この雇用先が少ないということが過疎にもつながる原因だと自分は思う。その地域の中で人が循環していかなければ、経済的な循環も生むことが困難になっていくし、その地域の特徴や地域資源が発展していかないと考える。就労支援どころよりも、藤里町の雇用先、人の循環を中心的に改善させていかなければならないと考える。

・北部地区

藤里町北部地区で暮らしている方々と交流する機会があった。北部地区は藤里町社会協議会から車で約30分のところに位置している場所である。ここは世界遺産である白神山地がすぐそばにある地区でもある。ここの地区は藤里町の中でも非常に過疎化が進んでおり空き家がとても多くある。ここに住む方が北部地区の現状について教えてくださった。この北部地域では獣害被害がとても多い。クマやイノシシは毎年のように集落において畑を荒らす、今年サルが非常に多いとのことである。獣害被害はどこの地域に行っても同じようにあるが、この地域が他と違うのは、イノシシやクマなどを対処する術がほとんどないということだ。例えば、自分が他に訪れた岡山県美作市上山地区では、藤里町の北部地区同様にイノシシやシカの獣害被害が起こっているが、ここでは、田んぼの周りに電柵が張ってあったり、イノシシやシカを捕らえたら、その動物の革を利用して小物を作ったりと、様々な対策がなされている。しかし、藤里町北部地区ではこのような対策は残念ながら見受けられなかった。その理由として、高齢者が多いということと、獣害に対する諦めのようなものがあつた。これらの問題を解決させるには、地域おこし協力隊などの人材を派遣させることが必要なのではないか。こういう過疎地域には外部からの人材を受け入れて、地元住民の方々からの信頼を育みながら、問題解決に向けて進んでいくべきである。また、北部地区の空き家問題も解決しなければならない。空き家が増えていくと、その町にあった元々の景観が損なわれてしまったり、倒壊の危険や火事の危険性にも晒されてしまう。このことから、空き家問題を解決させるために、空き家を利用した外部の人々の受け入れや観光客向けの宿泊施設へのリノベーションなど、理想ではあるが、そういうような解決策を引き出していかなければならないだろう。

・藤里町社会福祉協議会

この藤里町社協で行われている事業として、人づくり事業・新たな仕事づくり事業・若者にとっての住みやすいまちづくりを考える事業といった事業が行われている。これらの事業の目的として、町民すべてが生涯現役を目指せるシステムをつくるということが掲げられている。人づくり事業では、過疎化と高齢化の問題をピックアップし、過疎化・高齢化している町でも生き生きとして輝いて暮らしていくことを目指している。新たな仕事づくり事業は仕事の問題をピックアップし、主産業が低迷している町は人口減少や過疎化を止められないので、町民すべてが参加できる主産業を作ることを目指している。若者支援事

業では、若者の住みづらさ問題をピックアップし、高齢者対策と並行して、若者が住みやすい・住み続けたいと思う町にすることを目指している。これらのこと踏まえて、自分が思ったことは、社協の力だけでこれらの事業を成功させていけるのかとても疑問に思う。社協だけで今までやってきた結果が過疎化高齢化を結果的に助長させてしまったのだから、これからは、NPOや企業といった外部の力を借りていくべきだ。地域おこし協力隊を受け入れていることはとても良いことだが、受け入れているだけで、藤里町になにを還元しているのかとても曖昧だと自分は感じた。藤里町の発展には外部の力が必要不可欠だと思う。

・まとめ

この他にも、デイサービスや生活支援ハウスぶなっち、かもや堂での社協の職員の方々との交流など、貴重な経験を得る機会を与えてくださった藤里町社会福祉協議会にはとても感謝しています。このつながりを大事にしていき、また機会があれば藤里町に行きたいと考えています。自分はもっと過疎地域について知らなければいけないし、藤里町以外での過疎地域ではどのような取り組みがなされているのか知る必要がある。もっと多くのものを学んで、また藤里町に来たときは、自分が藤里町に与える側として、何か自発的にアクションを起こしていけたらいいなと思う。